

研修報告書 No.16

所 属： 東京大学医学部附属病院 初期臨床研修医
研修先： 土佐市立土佐市民病院

2019年11月、土佐市民病院において地域医療実習をさせていただきました。研修先として高知県を選んだ理由は、高齢者医療に興味があり、高齢化が特に進んでいる場所でどのような医療が実施されているのかを実際に見てみたかったからです。

今回訪れた土佐市は、人口2万7000人、面積91.49平方キロメートルで、高齢化率は34.6%（65歳以上・2015年）と全国平均26.6%に比べて高齢化が非常に進んでいます。温暖な気候と豊かな自然の恩恵を受け、野菜、果物、花の栽培が盛んで、日本一の水質を誇る清流である仁淀川の水を活用した製紙工業も有名です。

高知県は人口あたりの医師数は全国3位（平成28年度末）と多い一方で、若手医師の減少、地域による偏在、診療科目による偏在が問題になっております。これらの解消に向けて様々な取り組みを高知県や高知再生医療機構がされていることを知りました。微力ではありますが、今回報告レポートとともに、高知県の魅力を知ってもらい、県外の医師にも興味を持ってもらえるお手伝いができれば幸いです。

研修先の土佐市民病院は、病床数150床、常勤医師25名ほどの急性期病院です。事務や医療スタッフの方々はとても親切で、勤務歴が長く頼りになる方が多く在籍されていました。女性医師が数多く在籍していますが、それは子供がいても病院のすぐ隣に保育園があったり、時間短縮の勤務でも支障が出ないような連携がとれていたりと、安心して働ける職場環境が整っているからではないかと感じました。大学病院にいと他科の先生に会う事はほとんどないですが、土佐市民病院にいるときは医局で様々な診療科の先生と毎日顔を合わせ、診療に関する疑問や日常の何気ない話をたくさんさせていただきました。

研修では、外来、救急、病棟、内視鏡や超音波検査の見学などを主に行っていました。また、将来進む診療科や希望を聞いてくださり、研修内容を適宜調整してくださりました。

特に勉強になったのは外来診療です。内科外来を担当することは初めてで、最初は不慣れで緊張していましたが、指導医の先生や、看護師、事務の方々が暖かく見守ってくださり、困ることは一度もなかったです。季節的に感冒の患者さんが多かったですが、胆嚢炎、肺炎、慢性心不全の急性増悪など治療が必要で入院になる人もいました。普段は日々の業務に忙殺される余り、臨床現場で抱いた疑問点や知らないことをそのままにしてしまうことも少なくありませんが、自分で調べて勉強し、指導医とディスカッションする時間が多くあり、大変勉強になりました。

土佐市民病院以外にも、井上病院、伊与木クリニック、ひろせクリニック、土佐の里に行かせていただき、非常に充実した研修を送らせていただきました。

高齢者は、完全治癒を目指すというよりは、病気と共存してでも QOL を落とさないことを目標とするような医療を提供し、その人らしく生活が出来て満足いく死を迎えることが出来るように支援をしていく必要があります。今回の研修では、回復期の充実や、医療・介護のネットワークの構築をすすめ、患者の心身の状況に合わせて、適切な場所で適切な医療・介護を受けられるように、よく検討しサポートしていくことの重要性を感じました。

最後に、地域医療実習でお世話になった方々に心より感謝申し上げます。また近いうちに高知を訪れたいと思います。